

## トータルな人間福祉を実現できる 理論的・実践的研究者へ

人間の「生」(LIFE)をトータルに捉えられるカリキュラムを構成しています。福祉系、地域系、臨床心理系の3つの柱があります。具体的には、1年次から3年次までの必修科目として「人間福祉特別演習」を設置し、論文指導を実施。また、多彩な特殊講義を選択・必修科目として設置しています。「福祉政策系」「福祉社会系」「福祉臨床系」「地域・政策系」「地域・文化系」「臨床心理系」があり、複合的な研究が可能です。論文指導では、指導教員のほかに副指導教員による複数指導担当制となっています。

21世紀の人間福祉を総合的に実現するための理論的かつ実践的研究者を養成することが本専攻の目標です。そのために、社会的に意義のある博士論文をまとめることを目指しています。開設以降、毎年課程博士を輩出していることも特色の一つです。

| アドミッション・ポリシー<br>(学生受け入れ方針)                                                                                                                                                                                                                                       | カリキュラム・ポリシー<br>(教育課程の編成・実施方針)                                                                                                                                                                 | ディプロマ・ポリシー<br>(学位授与の方針)                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜入学前に修得しているべき知識・能力＞<br>【AP1 知識】 当研究科の福祉社会専攻または臨床心理学専攻の修了者あるいはそれと同等の専門知識を有している<br>【AP2 英文読解力】 研究テーマに関して専門的な英語文献を理解できる英語力を有している<br>【AP3 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる<br>【AP4 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している<br>【AP5 研究力】 先端の研究テーマを見出し、自らの研究方法をもって、研究に取り組める | ＜教育課程の編成方針＞<br>本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。<br>【CP1】 DP1専門知識、DP2読解力、DP3表現力養成のためコースワークとして、福祉系・地域系・臨床心理系の科目(「特殊講義」)をおく<br>【CP2】 DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力養成のため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける | 人間福祉専攻では、先端の研究課題を設定し、それに対して、創造的な答えを導き出し、自立して研究を行なうことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「博士(人間福祉)」、「博士(学術)」を授与する。<br>【DP1 専門知識】 先端的研究と研究方法に関する高度な専門知識を有する<br>【DP2 読解力】 内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる<br>【DP3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる<br>【DP4 実践能力】 研究者として必要とされる高度な実践能力を有する<br>【DP5 研究力】 先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる |

### 研究室紹介

眞保 智子 教授

障害者雇用を通じてインクルーシブな職場環境を考える

現場での実践を論理的に考察し普遍性を見出す

大学院人間社会研究科(人間福祉専攻)では毎年、国内外の学生が博士後期課程を修了し、大学院での研究成果をいかして幅広い分野で活躍されています。博士後期課程では、すでに修士課程で研究方法の原理と方法論を学んでいることを前提として、研究者として自立した研究活動を展開できるかが問われます。国内外をフィールドとした研究活動は、教員にとっても新しい知見をとにも喜び楽しむ学びの場となっています。在学中は修士課程の院生へのチューターとして、留学生や障がいのある院生への支援にもご協力いただくなど専攻を超えた院生同士の交流も活発です。Well-being の実現に向けて、人間社会研究科の教育と研究の意義はますます重要になると考えています。



### 学生・修了生の声

張 夢瑤 博士後期課程 在学中

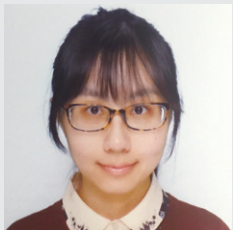
中国の一人っ子政策と親の介護への不安が進学のきっかけに。  
福祉制度が進んだ日本で研究者になるために邁進

進学のきっかけ

中国が一人っ子政策と急速な高齢化を重ね、現在、非常に独特な社会現状に達しています。自分もその一人っ子の一員として、将来的に親の介護問題に不安を抱えています。こういった危機感を抱きながら、福祉制度が進んだ日本で社会福祉を勉強することに決め、人間社会研究科に希望しました。

専攻の魅力

博士課程に進学してから、研究科や研究室がもつネットワークを生かし、自分の視野が広まるとともに、多様な社会調査ができ、充実した研究生活を送っています。さらに、研究科の先輩、同級生、校外の研究者と常に活発に交流することができ、恵まれた研究環境の中で研究できることを魅力と感じます。



研究テーマ

高齢者の在宅ケアにおける介護者のエンパワメント形成とその支援方策に関する研究

| 専任教員      | 専攻                                    | 研究テーマ                                                             | 主な担当科目                       |
|-----------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 石井 享子 教授  | 保健福祉学、公衆衛生学                           | well-beingと人材育成、ケアマネジメント特論                                        | 福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 伊藤 正子 教授  | 社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々への社会福祉援助      | 社会的排除とソーシャルワーク、多文化ソーシャルワーク                                        | 福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 岩崎 晋也 教授  | 社会福祉原理、社会福祉思想                         | 社会福祉原理・思想                                                         | 福祉社会系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 岩田 美香 教授  | 児童・家族福祉論、教育福祉論                        | 子育て・子育てでの社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク                             | 福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 小野 純平 教授  | 臨床心理学、生涯発達心理学、心理検査学、心身障害学             | 被虐待の心理援助、発達障害のアセスメントと支援、知能検査法                                     | 臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 久保田 幹子 教授 | 森田療法、比較心理療法、心理査定                      | 不安障害・強迫性障害に対する森田療法、女性の心理的危機、比較心理療法など                              | 臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 佐藤 繭美 教授  | ソーシャルワーク論(特に終末期ケアを中心として)、当事者および家族への支援 | 当事者・家族への支援、死別ケア                                                   | 福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 眞保 智子 教授  | 若者支援論、人的資源管理論、障害者のキャリアデザイン            | 若者就労支援、障害者雇用、企業における精神科ソーシャルワーク                                    | 福祉社会系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 末武 康弘 教授  | 臨床心理学<br>カウンセリング・心理療法                 | クライアント中心療法(パーソンセンタードセラビー)、フォーカシング指向療法の理論的・実践的研究                   | 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 図司 直也 教授  | 農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論                  | 農山村における地域マネジメント論、外部人材と協働する農山村の地域づくり                               | 地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習       |
| 関谷 秀子 教授  | 児童青年精神医学、精神分析学                        | 思春期青年期の発達、精神分析的<br>精神療法、親ガイダンス                                    | 臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 土肥 将敦 教授  | ソーシャルイノベーション、社会的企業家、CSR               | ソーシャルイノベーションの創出と普及、社会的企業家研究、CSR研究                                 | 地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習       |
| 中村 律子 教授  | 高齢者福祉論、老いの社会的・文化的研究                   | 高齢者施設処遇史研究、<br>高齢者福祉制度の比較研究                                       | ※2018年度はサバティカル(研究専念年度)です     |
| 長山 恵一 教授  | 比較精神療法、精神医学                           | 内観療法・森田療法・精神分析の臨床と研究、ウェーバー社会学と精神科学の関連                             | 臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 丹羽 郁夫 教授  | 臨床心理学、<br>コミュニティ心理学                   | 子どもの心理療法、ソーシャルサポート・ネットワーキング、コンサルテーション、移行対象                        | 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 服部 環 教授   | 教育心理測定学、<br>心理データ解析                   | 項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用                                           | 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習 |
| 布川 日佐史 教授 | 公的扶助論、雇用政策論                           | 就労支援と生活保障の日独比較、<br>生活保障自立支援プログラムの検証                               | ※2018年度はサバティカル(研究専念年度)です     |
| 水野 雅男 教授  | 都市住宅政策論、<br>市民活動運営論                   | 地域木造住宅保全システム研究、被災地復興地域づくり研究、創造都市研究、医療経済研究                         | 地域・文化系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習       |
| 宮城 孝 教授   | コミュニティソーシャルワーク、地域福祉計画などの地域福祉方法論       | コミュニティソーシャルワーク方法論、超高齢化地域における包括的な支援策                               | 福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習        |
| 望月 聡 教授   | 神経心理学、認知行動病理学                         | 神経心理学的症状とその発生機序・影響についての基礎研究と応用研究、心理的障害やその傾向の発生や維持に関連する機序・要因の実証的研究 | ※今年度は、特定の科目を担当しません           |
| 保井 美樹 教授  | 都市・地域計画論、計画行政、自治システム研究                | 欧米の都市環境システム論、官民連携による地域再生研究、コミュニティ・イノベーション研究やエリアマネジメントに関する研究       | 地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習       |
| 金築 優 准教授  | 認知行動療法                                | 認知行動療法の理論(特に知覚制御理論)に関する研究                                         | 臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ／Ⅱ          |

【2018年度】※年度により授業を持たない場合があります。

#### 設置科目【博士後期課程】

福祉政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
福祉社会系特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
地域・文化系特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
臨床心理系(心理・地域)特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
臨床心理系(病理・発達)特殊講義Ⅰ／Ⅱ(各2)  
人間福祉特別演習Ⅰ～Ⅲ(各4)

【2018年度】※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

#### 修了生の研究テーマ

- ・アメリカ大都市における包括的コミュニティ開発の形成と課題
- ・構造拘束的な体験様式と心理的距離に関する研究
- ・日本における市民活動の形成と社会的位置に関する研究  
－1970～80年代より活動を続ける市民活動団体に着目して－
- ・教師のメンタルヘルス規定因とバーンアウトに関する多角的研究  
－教師Well-being尺度の作成－
- ・ソーシャルワーカーの自己生成過程における専門的自己の構築と解体  
－中動態から生起する臨床体験－
- ・地域主義にもとづく文化財保存と活用に関する研究  
－文化財を核としたコミュニティの生成と活動を視野に－
- ・重度要介護高齢者における介護者の介護負担感および在宅介護の継続との関連要因に関する研究